

ヤマト住建

大震災で確信

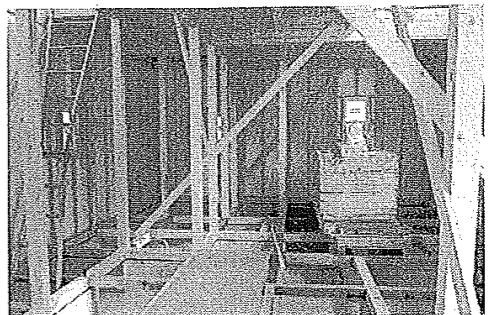
1995年の阪神・淡路大震災から、17日で16年を迎えた神戸市。最大で震度7を記録した未曾有の大地震は多数の死傷者と、家屋の倒壊や火事などの甚大な被害をもたらした。

一方で、まったく倒壊しなかった家もある。その中に、ヤマト住建の住宅も含まれていた。同社は当時140~150棟を手がけていたが、1棟の倒壊もなく、社長の西津昌廣は「震災発生を受けて社員とともに住宅をすべて見て回り、無事を自分の目で確認。そこで「これまでコツコツやってきたことは間違っていない」と確信した。丈夫な家をつくる。87



「丈夫な家」を追求する

体験から生まれた信念



過去の震災経験から、耐震性のレベルを高めてきた。被災地で倒壊した住宅を見て、31歳で独立した同社を創業した。倒壊を免れた住宅は、木造軸組工法、太い柱の間に入る補強材の筋交いを太くする、壁面に張った合板を壁面に張った。ミサイルが飛んできても壊れず、30年経っても揺らがないと元気でいられる。住から冷やかされるほど頑丈な家販売会社での勤務を経て、手間もかかるため大工

小経営者に興味を示し、協力をとりつける。その後現地から大工を招いて指導を受け、材木などを輸入して住宅を建設し、販売した。大工の工賃に誤算が生じたことで、会社には大きな赤字が残ってしまったが、顧客からは好評を得た。現在の住宅には、軸組みパネルを組み合わせた工法を採用。柱と梁の接合部分は金物で補強し、強い力が加かっても木材の断面欠損が起らない構造になっている。

強烈な記憶

同社の「丈夫な家」づくりの原点をたどると、西津自身の5歳の体験に行き着く。61年、大阪湾を襲った

▽所在地 神戸市中央区中山手通4の3の5、078・230・0600▽社長 西津昌廣氏▽従業員 106人▽資本金 3億1900万円▽売上高 約50億円(09年12月期)▽URL www.yamato.co.jp

ヤマト住建

夢が上回る

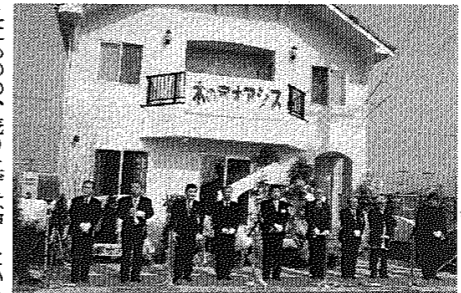
「苦しいことが多かったが、夢に向かう情熱の方が大きかった」。ヤマト住建社長の西津昌廣は、創業当初を振り返る。幼いころ、自宅を台風が直撃した際に抱いた強い思いは、丈夫な家をつくる夢につながっていった。住宅業界に就職した西津は自分が研究した家づくりを社内で提案したものの、コストや収益面の問題からなかなか希望が通らなかった。「それならば自分で夢を実現しよう」と、思い切って独立を決めた。

無一文からのスタートで社員もわずか、ビラ貼りを妻に手伝ってもらった。営業も経理も何でもやった。創業後半年たって社員を迎



健康住宅で会社の信頼を得る

夢の実現に向かい創業



他社に先駆けた健康住宅が高い支持を得る。紹介で次第に客が増え、資金がたまってきたことから住宅を建てようとする銀行を断った。西津は「顧客が喜んでくれる」と、熱意で何とかな信用金庫の融資を取りつけ建設に乗り出したのは、93年ごろだ。

「客ご心ごもった付き合いをすれば、この会社は一生懸命やってくれると安心していただける。それにより仲間が増えていく」。西津が大事にする、創業時から変わらない思いだ。(敬称略)

夫が家を建てようとした。健康と省エネを両立した「健康住宅」を売り上げた。客の支持を得る。夫が家を建てようとした。健康と省エネを両立した「健康住宅」を売り上げた。客の支持を得る。夫が家を建てようとした。健康と省エネを両立した「健康住宅」を売り上げた。客の支持を得る。

「客ご心ごもった付き合いをすれば、この会社は一生懸命やってくれると安心していただける。それにより仲間が増えていく」。西津が大事にする、創業時から変わらない思いだ。(敬称略)

ヤマト住建

急成長

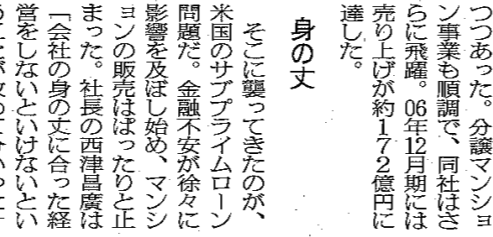
2001年2月に開発した健康住宅「木の家オアシス」成功で業績を大きく伸ばしたヤマト住建は、一戸建てと同じように健康仕様のマンションを手がけ始めた。また、オフィスビルや賃貸マンションを買い取り、リニューアルして売る不動産投資事業にも乗りだし、東京や名古屋でもビルを購入するなど手を広げていった。

一戸建てでも土地を購入したうえで住宅を建て販売するようになり、1棟ずつの家のモノづくりよりも、大きな街づくりに取り組みむことで顧客に喜んでもらうという方針に変わ



経済危機で原点に立ち返る

省エネ住宅で再び脚光



健康と省エネを両立した「健康住宅」を売り上げた。客の支持を得る。健康と省エネを両立した「健康住宅」を売り上げた。客の支持を得る。

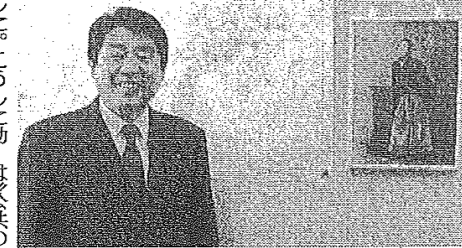
健康と省エネを両立した「健康住宅」を売り上げた。客の支持を得る。健康と省エネを両立した「健康住宅」を売り上げた。客の支持を得る。

窓からの紫外線や日射熱を遮断する特殊なガラスを2枚重ね合わせ、アルミウムの約4倍の断熱性を持つ樹脂サッシを採用。高い気密性も確保し「夏涼しく、冬暖かい」理想の住環境を作りだした。「木の家オアシス」で実現した健康住宅のコンセプトも取り入れた「エネージュ」はたちまち評判になり、同社の主力商品へ成長した。その後も同社は間取りが自由に変われる住宅や低価格の規格住宅などを、次々と開発していった。西津は「一戸建てという本業にも性能は高めよう」と、他社との共同研究も行いながら開発に取り組みしていた。(敬称略)



「思い」継承、100年続く企業に

世界基準の家づくり



「思い」継承、100年続く企業に。世界基準の家づくり。世界基準の家づくり。世界基準の家づくり。

世界基準の家づくり。世界基準の家づくり。世界基準の家づくり。世界基準の家づくり。世界基準の家づくり。